

調査結果概要

1. 回答される方自身のことについて

回答者の性別は、「男性」「女性」がほぼ同じ割合を占めた。

年齢は、「19歳以下」はなく、「20歳代」「30歳代」は少なく、「40歳代」「50歳代」「60歳代」「70歳以上」においてほぼ同じ割合を占めたが、「60歳以上」が全体の半数以上を占め、この地域の年齢層は高い地域であることがうかがえる。

職業は、「自営業」「無職」「専業主婦」が全体の約7割を占め、日常的にこの地域で生活している人が多いことがうかがえる。

世帯(事業所)人数は、「2~4人」が約7割で最も多く、核家族世代が多いことがうかがえる。

住んでいる(事業を営んでいる)場所は、「新川町」が約4割で最も多く、次いで「山ノ神町」「御幸町」の順にそれぞれ約2割を占めた。特に「新川町」「御幸町」が多いのは、地区面積が広い、およびマンションの立地によるものと思われる。

住み始めた(事業を営み始めた)理由は、「生まれてからずっと」「半田市外から」「半田市内から」がそれぞれほぼ同じ割合を占めたが、「20年以上」住んでいる(事業を営んでいる)が約6割を占め、定住者が多かった。

2. お住まいの(事業を営んでいる)建物等について

住んでいる(経営している)建物の種類は、「持ち家」が全体の約7割、「借家」が約2割を占めた。

建物が建っている敷地は、「自己所有地」が全体の約7割、「借地」が約3割を占めた。

建物の構造をみると、「木造」が全体の約6割、「鉄骨造・コンクリート造等」が約4割を占めた。これを築年数でみると、「30年以上」経過した建物が全体の約4割を占めていることから、老朽化した建物が多いことがうかがえる。築年数を構造別にみると、大半が「木造」であることがわかる。一般的に昭和56年の建築基準法改正以前の建物は耐震性が低いと言われていることから、地震により被災する建物が多い地区であることがうかがえる。

満足度をみても、「持ち家」「借家」に関わらず、「一戸建て」に住んでいる(事業を営んでいる)人の不満が多く、築年数の増加と共に不満の割合が高くなることから、建物の老朽化に対する不満が多いことがうかがえる。具体的な不満事項をみても、「建物が老朽化している」が約5割を占めていることからわかる。

また、「敷地が狭い」「建物が狭い」ことに対する不満も多いことから、狭小敷地が多くあることもうかがえる。

3. 自家用車等について

世帯(事業所)における車の所有状況は、「持っている」が約8割と高く、うち「2台以上」所有している世帯(事業所)が約5割を占め、車社会に依存していることがうかがえる。

駐車場所をみると、「1台」所有する世帯(事業所)でも、「月極駐車場など、離れた場所」に駐車する割合が約5割を占めていることから、狭小敷地、狭隘道路が多いことがうかがえる。

駐車場所を住んでいる(事業を営んでいる)場所別にみると、「西端町」において「月極駐車場など、離れた場所」に駐車する割合が約7割を占め、特に狭小敷地、狭隘道路が多いことがうかがえる。

一方、車を「持っていない」人の理由としては、「駅・商店の近くなので必要ない」が約6割を占め、中心市街地における交通の便の良さが挙げられた。

4．JR半田駅前の現状について

JR半田駅前の現状における不満の有無は、「ある」が約9割と高い割合を占めたが、年齢を重ねると共に不満の減少傾向がみられた。これは、当面の生活に支障がなければ、生活環境を変えたくないと感じる人が増えることがうかがえる。しかし、「70歳以上」において不満の割合が高いのは、高齢化に伴い、移動手段に限られるために買い物ができない等、今のJR半田駅前の現状では生活に支障を来しているという状況がうかがえる。

具体的な不満をみると、「まちに活気がない」「商店が少ない」と感じている人が非常に多く、中心市街地の衰退を最も懸念していることがうかがえる。

また、「災害に危険を感じる」「自然環境が不足している」との回答も多く、災害に対する危機意識、景観に対する意識の高さもうかがえる。

5．JR半田駅前の将来について

JR半田駅前の現状に対する不満は、「まちに活気がない」「商店が少ない」と感じる人が多い一方、「災害・犯罪などのすくない安心、安全なまち」を将来に望む声が多く、「賑わい」より生活に身近な「安心・安全」を求めていることがわかる。

居住(事業)継続の意向は、現状に対する不満は多いものの、「住み続けたい」と感じる人が多く、中心市街地の利便性の良さがうかがえる。特に、「住んでいる(事業を営んでいる)年数」が多いほど、地域に対する思いが強くなることがうかがえる。